

普通救命の心構えの重要性

保健福祉部会副部会長 久保田 博

平成二十七年秋の普通救命講習会が、十一月十四日に開催され、北本消防署東分署の署員三名の指導のもとに、二十名を超える地域住民の皆様の参加を得て、無事に取り行なわれました。

講習会は、倒れた方を考慮すること、場所の適否を判断すること、周囲に協力者を求めることなど、基本的に必要とされることを、具体的に説明することから始められました。

見ず知らずの方に接する準備として、適切な誘導が最初にあったことは、大変良かったと思われまます。そのためAEDの機器の操作や作動についての関心が、より深まったと思われるからです。それは、事後の質問が活発かつ真剣なものであったことから分かりました。

このような講習会が今後とも続けられることは有意義であると実感致しました。



今年のおもちつき

本宿七 宮倉 享佑(南小三年)

おもちつきの日、本宿七丁目のみんなといっしょに天じんさまに行きました。くもっていたけど、風のないあたたかい日でした。

てんじんさまにつくと、もうほかの地区の子たちでいっぱいでした。おくには、かまどのけむりや、もちのゆげがたちこめていて、おじさんやおばさんがたくさんはたらいっていました。

おいなりさまの前にならんでもちつきをやらせてもらいました。小さい子はよろよろしながら五回がんばってきねをふるってました。大きい子は力いっぱいどんどんきねをふるってストレスはっさんしてました。

帰ってから食べたおもちは、やわらかくてまだあたたかでした。来年もおねがいます。

おいしょ!

おいしょ!

東部コミュニティまつりに

短歌を展示す

春扇さきたま短歌会 岩田 けい

たくさんの方々の趣味の展示、生き生きとした笑顔で趣味の発表をされる方々、まつりに参加して感動と幸福を実感しました。

短歌は、三十一文字の言葉の世界です。まずは見た俣、感じた俣の感動を五七五七七と指を折り乍らも詠む。いつもの歌の会では、歌友同志作品の歌評や感想を語り合い、先生の添削を中心に皆で勉強しています。

漢字が読めても書けないと辞書を引き、移りゆく季節を敏感に感じる感性の眼を養う、日々の生活や様々な題材で短歌を詠む、そんな生活も悪くないようです。

人間一生勉強と言われますが、短歌を通してこれからも楽しく学んでいきたいと思えます。短歌に少しでも興味のある方、遊びの気分でも一度お出掛けください。歌友一同でお待ちしております。末尾に、お世話戴いた関係者各位に感謝と御礼を申し上げます。

